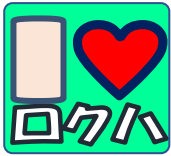




ロクハの自然をどうぞ 12月号



公園利用の呼びかけ看板のヒストグラム。公園利用の人だけでなく、すべての動植物を守るための大切なことです。



冬至、忘年会、大晦日、数ハ日、小晦日、師走、クリスマス、年の内、年の暮、クリスマスローズ、冬至梅、ポインセチア、行く年。



イチョウのプロムナードメタセコイアの並木、この月、劇的な変化を見せます。スケスケで寒々とした景色に。



多目的広場に映る、ケヤキの木の影。くっきり見えるのは草がないからか



実だけがぶら下がるモミジバフウ。



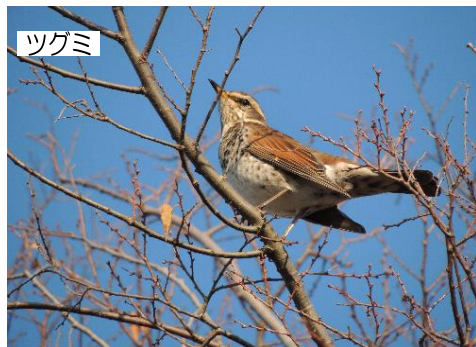
初霜はいつか？早朝の観察で確認



水槽の水が凍り付くほどの寒気が来るときもある。

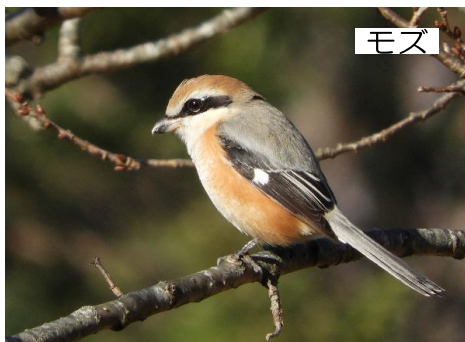
野鳥観察

公園で生活する鳥も、この時期に滞在する鳥も、12月は12月らしい行動をします。カレンダーを見るのでなく食べるものに合わせていることがわかります。木々に葉っぱがあるときはそこに虫を、実がついていればその身をさがしています。季節が進むと地面に降りてくるが増えます。



ツグミ

口をつくむ・鳴かない鳥としてツグミだそうだが頻繁に短い声「クワッ・クワッ」と地鳴き。広場に降りてミミズを引っ張り出す。



モズ

けたたましく鳴く、いろいろな鳴き声が聞かれるので「百の舌」と記される。冬時期でも虫など小動物を狩る。くちばしが猛禽類に似る。



カラビロ

モミジパフウの実にぶら下がり、そこからこぼれる小さな種を食べる。大きな群れになる。



エナガ



ヤマガラ



シジュウカラ



コゲラ



キクイタダキ



メジロ

小鳥の混群

意図してか、ロクハ公園でのこの5種が群れをつくって動いています。エナガが一番多いです。春に生まれた家族を中心に複数家族が合流しているようです。その後はヤマガラやシジュウカラが追います。ヤマガラやシジュウカラは群れのリーダーのような感じです。危険を知らす声は、異種間で共通だそうです。コゲラはマイペースで群れについていくようです。メジロも数が多いですが、混群の中に入っている時と離れていると感じることもありますみんな、公園の留鳥ですが渡り鳥が混じっていることもあります。めずらしいキクイタダキがいなか注視します

部分白化のシロハラR 7期連続滞在



20190126



20221216



20200205



20240211



20201218



20241124



20211214



通常の個体

縄張りで生活する

左のシロハラは、頭部が部分的に白くなっています。それが個体を識別するポイントになり、同じポイントに生活していることを見せてくれました。色々な場所で観られるものも、それぞれの場所で、縄張りを持って生活していると考えられます。左記のシロハラは2024年度途中に見られなくなり公園内で死んだようです。

ます。他の個体が入ってくると追い出します。冬の間見られる、シヨウビタキも縄張り意識が強くオスとメスの交流もありません。「この場所ではメスばかりに出会う」など感じるの縄張り生活をしている証です。食べ物の存在が中心です。縄張りとは同種に対しては厳しく、異種に対しては発動されず。人に対してもあるように感じます



オス

メス

シヨウビタキ

冬の花 メジロのお気に入り

いよいよ花が少なくなる時期ですが、この時期に花をつけるものもあります。メジロは見逃しません。花から花へ。吸蜜します。花期が長いのもメジロにとってはありがたいです。雪がつもっても

セイヨウヒラギナンテン



サザンカ



ピワ



低木なので花の様子が間近で見られる。そんな木にやってくるメジロもさわるような場所で見る事ができる。複数で見られることが多い

花の真ん中に蜜の玉が見られる。それを目指して器用に首を突っ込む。花びらに足の爪を食いこませぶら下がる。

はっぱは大きくしかも頑丈。安定したスタイルで食事をする事ができる。



ミコアイサの換羽

パンダガモの愛称がある姿は③の状態です。飛来期のこの時期、最初は①のようではじょじょに目の周りの丸い黒がくっきりしてきます。多くの鳥が換羽します。とりわけミコアイサやオシドリオスの換羽は別種を見ているようです。



きのこを食べる甲虫

サクラの古びた樹皮にびっしりキノコがついています。昨年度ここに、アカハバヒロオオキノコムシがこのキノコを食べに来ていました。日当たりの良い場所です。甲虫類で冬の昆虫としては低い気温でもせせと動きのが珍しいです。



サネカズラの実



サネカズラ



ワタムシ・雪虫 (アブラムシの一種)

さがしていてもというわけではありませんが、時々 ゴミが飛んでいる野に出会います。あまり風のない時、フワフワと自力で動いているゴミに出会うのがこれ。帽子や服をかざし行き先をささぎると止まることもあります。雪虫というのは飛ぶことと積雪の関係をつなぐ経験からきているみたいです。





お株



め花



お花



め株

ハマヒサカキ

平和の鐘の近くの生け垣が満開です。日差しがあるときは虫の羽音が聞こえるぐらい集まっています。ガス漏れかと勘違いするような臭いがあたりに漂っています。ヒサカキというよく似たものもあります。そちらの花期は早春です。



雄花期



雌花期

ヤツデの花

かこたかし作の絵本「てんぐちゃんシリーズ」によって知名度が高いヤツデ、時々、この葉っぱを得意げに持っている子に出会います。花はこの時期に咲きます。虫に花粉を運んでもらう花は、冬の時期は大変です。虫がいないのですから。少数でも確実に集めるためににおいが強いようです。雌花期には5本のおしべが見えます。雌花期にはおしべがなく真ん中に複数の雌しべの柱頭が見えます。自家受粉を避けるためだそうです。



マンリョウ



マンリョウ (白)



ナンテン



シュウリョウ (ヤブコウジ)

赤い実がいっぱい

今の時期に熟す実は結構落ちることなく長く木についています。そのことを知っている鳥たちは美味しいものから食べていきます。どの実も食べてませんからおいしいかどうか分かりません。マンリョウはお正月の飾り物に使われます。万両に対して、千両百両、十両、一両の名前をもらっているものも「寿」感があります。



ソヨコ



サルトリイバラ



ヒヨドリヨウコ



クロガネモチ



野鳥ウォッチング

12月14日 AM10:00から

編集後記

咲く花や虫の数が少なくなり紙面を埋めるのに必死の季節です。野鳥が飛び交ってくれるのを期待しています。

facebook「ロクハ見守り」
www.facebook.com/rokuhafamily



ロクハ公園HP
http://www.park-698.net//

